

延宝期」と幕末まで持続する脇百姓の闘争との関係、等々。これらの一定の不整合は近世における身分と階級・階層との連関を如何に解くかに関わっている。初期の脇百姓と後期のそれとは経済的には明らかに異なっているであろう、にも拘らず脇百姓の属性を有している。そういった状況を峻別・論理化する課題が残されているのではなからうか。第三点としては初期の地主・小作関係についてである。氏は各所でこの点について触れておられるが、必ずしも明確ではない。つまり、小農が不安定であるにも拘らず、名田地主や小領主ではなく、小作料を取得し、さらに後に質地地主に展開していく様な地主・小作関係とは如何なるものであるのか、ということである。これ迄の研究では、小作料の存在は小農経営の安定化（その内容は別としても）とパラレルに捉えられて来たはずであり、私には氏の理解が充分呑み込めないのである。

紹介
右の如きいくつかの不満や疑問を持つにしても、六百ページに及ぶ本書に盛り込まれた豊富な事象と実証は、当該段階の研究を

始めたばかりの私にとって、多大の示唆を与えてくれるものであり、また美濃近世村落を体系的に扱った貴重な研究として高く評価されるものであろう。

（昭和四十八年三月 吉川弘文館 四五〇〇円）

（永本邦彦・京都大学大学院学生）

会 告

昭和四十八年度史学研究会の総会と公開講演は、予定通り十一月二日（金）午後一時より京都大学楽友会館で開催されました。総会は水津一朗、松尾尊允両常任理事が会務、編集、会計報告を行いました。公開講演は松尾尊允、中山治一両氏により、つぎの演題で行なわれ、盛会裡に終了しました。なお講演内容はいずれも近く本誌に掲載する予定です。

関東大震災以後五十年 松尾尊允氏
クリミア戦争と東アジア 中山治一氏

バックナンバーについて

物価高と紙不足のおりから、「史林」バックナンバーの価格を次の通り改定させていただきます。御了承下さい。

なお、お申込は必ず前金にて、郵送の場合は送料（各冊三〇円）を添えてお願い致します。

五五巻二号まで……………三五〇円

五五巻三号以後……………四五〇円

一九七三年二月二五日印刷 定価六〇〇円
一九七四年一月一日発行
史 林 （第五七巻第一号）

発行人 史 学 研 究 会

京都市左京区吉田本町
京都大学文学部内

理事長 佐 伯 富

印刷所 中村印刷株式会社

京都市下京区西七条御所ノ内中町五〇